

公開シンポジウム
子孫に伝えたい魅力あるまちづくり
—個性のあるまちブランドの醸成—

主催：社団法人日本不動産学会

日時：平成19年1月29日（月）13:30-17:30

場所：東京・J Aホール国際会議場（東京都千代田区大手町1-8-3 J Aビル8階）

<開催主旨>

歴史を持つ地区においての再開発が盛んになっている。これまでのような、全く新しい建物を古い建物を壊して建てる方法ではなく、その土地の伝統を活かした再開発が盛んになっている。その手法は、地区によって様々であるが、目指すところは、持続可能な環境に配慮した「子孫に伝えたいまちづくり」がある。そうしてできたまち（都市）はこれまでのような画一的なものではなく、個性のあるものになる。そして市民はそれに価値を見だし、まちに対してブランド的な評価を持ち、行動をするようになる。その行動は、経済的効果とともに不動産評価にも影響を与えている。「個性のあるまちブランドの形成」が、「美しい日本」に大きな役割を担っていると思われる。

このシンポジウムでは、上記の考えを踏まえて、「子孫に伝えたい魅力あるまちづくり」に向けての産官学のそれぞれの考えを述べていただき、そして共通認識を深めていくことを目的として開催するものである。

<主な内容>

基調講演で、不動産学会の設立20周年を機に設置された産官学連携研究会「都市エクイティ研究会」で研究している「まちブランド形成」について、まちブランドに対する消費者指向の概念である「都市エクイティ」をわかりやすく説明する。

パネルディスカッションでは、「まちブランド形成」について、今話題となっている地区（東京、福岡）の開発を担当している方に開発事例の報告とその考えを発言していただき、不動産学会が貢献できるものは何か、産官学連携でのあり方はどうあるべきかをフロアを含めて自由に論じる場にしたいたいと考えている。

<プログラム>

（敬称略・五十音順）

13:30-13:35 開会挨拶 梶 秀樹（日本不動産学会会長・慶應義塾大学教授）

13:35-13:45 来賓挨拶 小野邦久（独立行政法人都市再生機構理事長）

13:45-14:15 基調講演「まちブランドの評価と消費者行動」

齋藤参郎（福岡大学都市空間情報行動研究所・所長、経済学部長、教授）

14:25-17:30（途中に休憩あり）

パネルディスカッションⅠ：パネリストによる開発事例報告

パネルディスカッションⅡ：ディスカッション

パネリスト 齋藤 参郎（福岡大学都市空間情報行動研究所長・経済学部長）

清水 郁夫（国土交通省都市・地域整備局総務課長）

陶山 秀昭（西日本鉄道株式会社・専務取締役）

多田 宏行（三井不動産株式会社S&E総合研究所長）

辻 慎吾（森ビル株式会社・取締役）

長島 俊夫（三菱地所株式会社・代表取締役専務執行役員）

司 会 阪本 一郎（日本不動産学会常務理事・明海大学教授）